

やちぼうずとやまなこ
小川 浩子
「湿原のたより何かおきき？」



みんなの思いがナショナルトラスト

霧多布湿原に残る最大規模の民有地 50万坪。この買い取りプロジェクトに全国から多くの支援をいただき、霧多布湿原保全のナショナルトラストが進んでいます。このプロジェクトに会員の方からメッセージが届きました。

「二十歳の時に訪れてからもう二十年以上も経ちましたが、いつか子供たちを夕暮れの琵琶瀬展望台に連れて行きたいと思っています。どうぞ頑張ってくださいね。(京都市)」

私たちの活動の始まりは「この霧多布湿原を未来のこともたに残したい」という思いからでした。

2年前、湿原の民有地を借りて残すということから始まった「霧多布湿原ファンクラブ」の活動が、イギリスのナショナルトラストを目指した湿原民有地の買い取りへと進んできました。この間、たくさんの方々から、「頑張ってください」という励ましをいただいで来ました。振り返ってみると、私たちがこれまで続けて来られたのは、皆さんがこうして、霧多布湿原のことを気にかけて、その思いを寄せ続けてくれたからだだと思います。こうした皆さんとのつながりが、私たちの力を湧きだす源となりました。

活動の中心となって会を運営しているのは当初から変わらない地元で生まれ育った面々です。気がついてみると、霧多布湿原トラストは、いまNPO法人としては最も広大な面積を保全している民間団体になりました。

ぜひ皆さんのお子様を霧多布湿原にお連れください。そして皆さんといっしょに残してきた霧多布湿原を自慢してほしいと思います。(事務局長:伊東俊和)



霧多布湿原トラスト 会員募集中

サポーター会員(個人) 一口 1,000円
法人会員 一口 10,000円

2009年2月の会員数 2,743人

ホームページによる会報掲載

皆様からの会費や寄付をできるだけ湿原の保全事業に役立てるために、会報をホームページ上に掲載し、経費や資源の節約を図りたいと考えています。

会報の郵送不要の方はへご一報ください。E-mailにより会報の掲載をお知らせします。trus@kiritappu.or.jp

表紙・挿絵 作家紹介

小林 絵里子

(野生生物画家・イラストレーター)



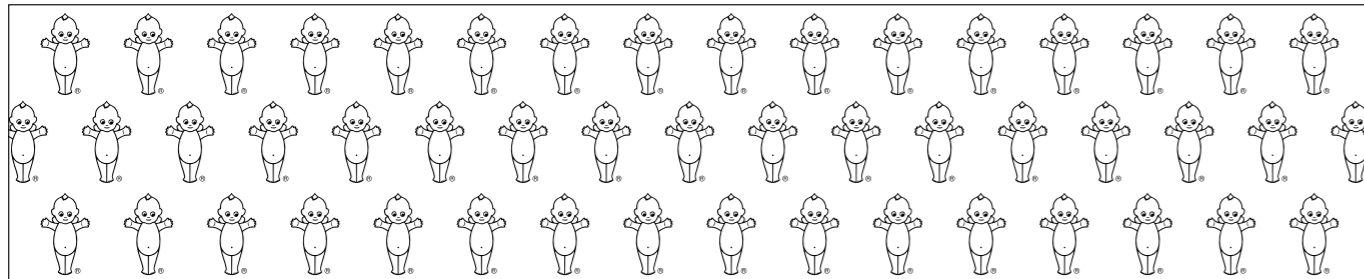
東京生まれ。200年から年間浜中町に滞在。先ごろ初絵本「ちびっこびた」(こくま社)を出版。

フリーペーパー「konoha」(文一総合出版)「椋鳩十」はらっぱのおはなし(PIF研究所)より今夏出版予定などの挿絵担当。

Artists for Conservation会員。

現在、神奈川県座間市在住。

URL <http://www2.odn.ne.jp/eris-arts>



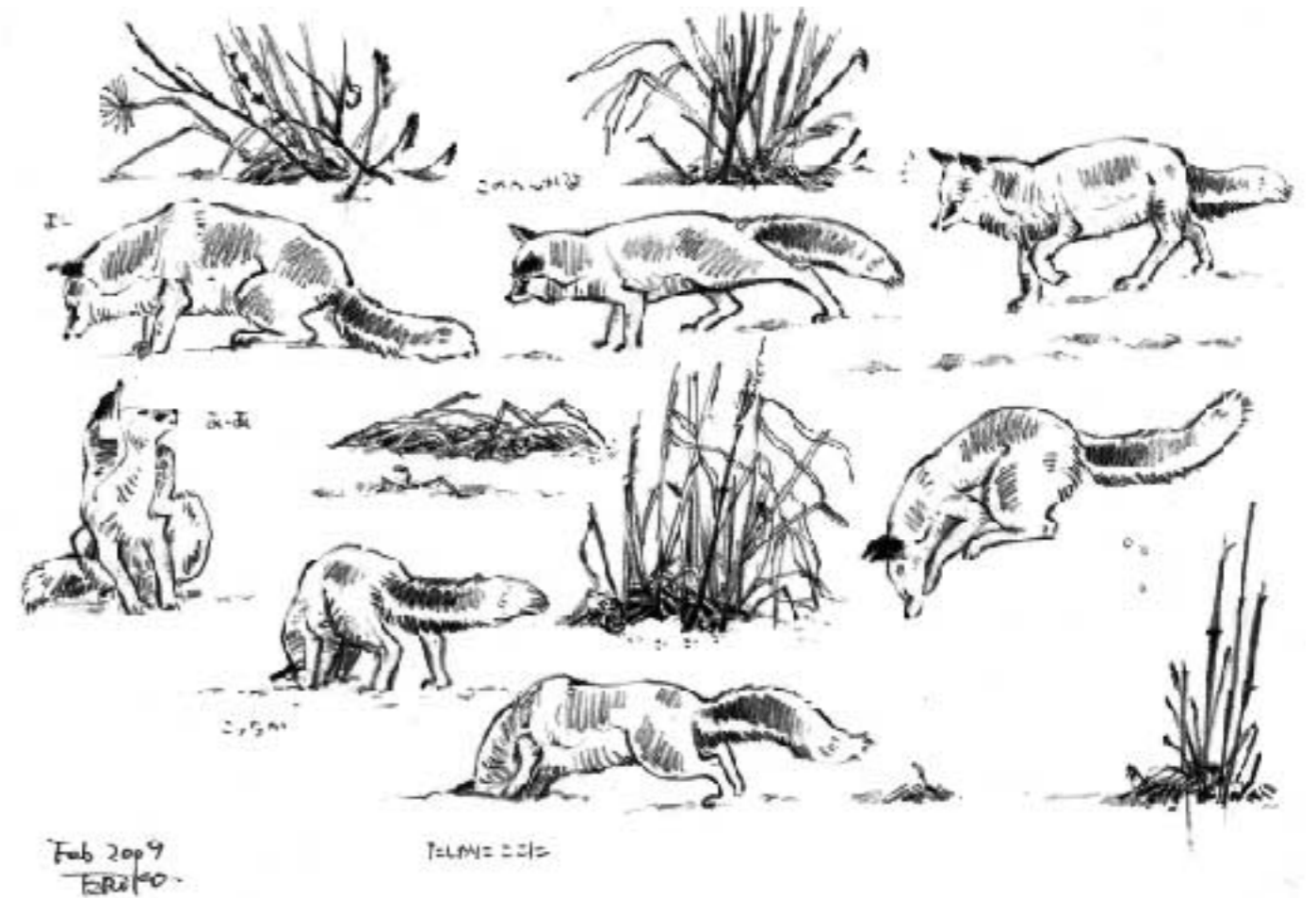
www.kewpie.co.jp

愛は食卓にある。 Food, for ages 0-100 **キューピー**

きりたっぶ湿原

ファンクラブ通信

～ この湿原をこどもたちへ ～



絵、文：小林 絵里子

キツネがネズミ捕りをしている姿を見ているのは楽しい。彼らにとっては生きるために必死なのだから、おもしろがって眺めているなんて不謹慎、ともいえるかもしれないけれど、成功率の方が少なそうな狩りには、思わず応援したくなってしまふ。しかし一方のネズミだって、何とかこの冬を乗り越えようと、やはり必死なことを思えば、うまく逃げきってほしいという気になったりする。

誰もが平和に納得できるものの見方をするのは難しい。いつの時代も人はそんな社会を望み、短い歴史の間で慌ただしく変化し続けてきた。“チェンジ”のことばに湧く今も、昔もこれからも私たちが追い求めるものは最終的にただ一つ、“変わらない何か”なのかもしれない。それを得るためのカギはきっと、誰も足元に転がっているにちがいない。

We have a Dream!
この湿原をこどもたちへ



認定特定非営利活動法人 霧多布湿原トラスト

〒088-1531 浜中町仲の浜 122 TEL0153-62-4600 FAX0153-62-4700
<http://www.kiritappu.or.jp/> E-mail trus@kiritappu.or.jp

発行：霧多布湿原トラスト

このマークは、Wetland(湿原)の“W”と、タンチョウの羽ばたきや湿原の川などをイメージしています。